

第1回文化マスタープラン市民検討会議 議事録

平成29年9月27日（水） 午後7時～9時

於：長久手市文化の家 企画室A・B

1. 市民検討会議について

市民検討会議について、文化の家より説明。

【質問】

- ・ 検討会議では何を検討するのか。
 - 基本的にマスタープランの内容について検討。作成の責任は市が持つ。
- ・ マスタープランの決定は3月だが、スケジュール的に厳しいのではないか。
 - 基礎となるのは現行のマスタープラン。ゼロから作るのではなくて、時代の変化に合わせて付け加えていく。

2. 文化マスタープラン策定について

マスタープラン策定の趣旨について、文化の家より説明。

- ・ 策定の理由：
 - 現行プランから10年が経過し、法律や市の政策、市民ニーズが変化したことから。
- ・ 策定までの検討会議の流れ：
 - 10月中に2、3回ほど検討会を開き、素案を作成。
 - 11月中旬に運営委員会に中間素案を提出。
 - 2月にパブリックコメント（検討会の動きについては、コメントを見て判断）。

【意見】

- ・ 市民がマスタープランを作成したという意識が持てない。
 - 文カフェや市民検討会議を通して、策定の過程に参加してもらおう。市民に丸投げはできないため、市・コンサルタントと共同で作成したい。

3. 意見交換

自己紹介と、マスタープランに関する自由な意見交換。

【意見】

□マスタープランについて：

- ・ 市民が主体となっているのは全国的にも珍しく、注目される。
- ・ 文化マスタープランを持つこと自体が珍しいが、市民に伝わっていない。
- ・ 文化の家の事業だけでなく、長久手全体の事業を含めたマスタープランに。伝統文化や市の景観なども含めて考える。改正された文化芸術基本法では食文化も含まれるようになった。

□施設連携について

- ・ 公立の芸術大学は全国的にも少なく、特別な存在。もっと連携していくべき。
- ・ 親にとっては子どもが行きたいかどうか重要な判断ポイントになる。学校での広報活動が重要。学校公演や、平成子ども塾のホール演奏版などができるとうい。
- ・ 多課との連携を視野に入れて検討していくとうい。
縦割りは行政目線、総合的に見るのは市民目線。市民の意見によって連携につながっていくのではないか。そのためにも市民からの発信が必要。

□長久手について

- ・ 気軽に行ける日常性、何もなくても人が集まる雰囲気重要。文化の家は成功例。
- ・ 長久手をどういうまちにしたいのか。お客さんを増やすためのマスタープランではない。足を運んでもらった人をどのように変えていくのかを念頭に。
- ・ いい演奏があってもいい観客がいないとダメ。市民のレベルを引っ張り上げていかないといけない。
- ・ 市内の各地域にも地域差がある。行政と地域が一体にならない。
- ・ 長久手がぶれない信念を持って動かなければならない。

4. 今後の会議運営について

毎回2時間ぐらいを予定。次回からは市民で会議を運営。

【意見】

- ・ 市民で進めたとき、何も用意されていないでは困る。世話人を置くのはど

うか。

→ 今後は世話人を中心に準備を進めていく。

世話人：A,B,C

5. 事務連絡

- ・ 終了時刻が 21 時では遅いため、今後は 18 時から 20 時とする。
勉強会には、検討会のメンバー以外にも声掛けを行う。
- ・ 第4回の文カフェは 10 月 14 日（土）。
会場は西小校区共生ステーション。文化の家以外で行うのは初。